



国民の森林・国有林

平成28年4月10日
(2016年)

No 1731

九州森林管理局

〒860-0081
熊本市西区京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



有識者懇談会において各委員からの意見を聴取

地域管理経営計画等の樹立及び 変更に係る有識者懇談会を開催

「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、九州森林管理局が管理する国有林の地域管理経営計画と国有林野施業実施計画の樹立および変更に係る有識者懇談会を、3月2日に開きました。

2015年度

は新たに森林計画を樹立する沖縄中部森林計画区をはじめとする7つの森林計画区の樹立に加え、筑後・矢部川をはじめとする8つの森林計画区の変更が予定されており、これら森林計画区の経常および新規樹立・変更と九州森林管理局の取り組みに関し、委員の皆さまよりご意見をいただきました。

冒頭、洲上和之九州森林管理局長より「全国的に人工林資源が充実する中、全国の森林面積の約1割を占める九州から、全

国の木材生産量の約2割を生産しており、九州は非常に林業が盛んな地域である。また、同時に九州・沖縄の国有林は、北は対馬列島、南は西表島までにわたっており、貴重な森林生態系を有している。保護林制度が始まり100年が経過した今、全国の保護林制度の見直しを受けて九州でも進めているところ。

今回の計画樹立・変更にあたっては、今後の林野行政や木材利用の促進など、取り組むべき課題に向けて、委員の皆さま方から忌憚のないご意見をいただきたい」とあいさつがありました。

懇談会は、「地域管理経営計画の策定等について」と「林業の成長産業化に向けた九州森林管理局の取組について」の2部構成で、九州大学大学院の吉田茂二郎教授を座長に、有識者委員の皆さまからご意見をいただきました。

計画の樹立に関しては、種子島・沖縄の海岸林の今後の保全、九州の活発化する活火山への取り組み、希少な動植物への対応、今後の木材需要に対する安定的な木材供給などについて質疑応答が行われた後、今回の計画樹



意見を述べる有識者委員

立・変更については、意見なしとの結論をいただきました。

また、九州森林管理局の取り組みに関しては、本年度九州各地で本格稼働を迎えた木質バイオマス発電に対する木材の安定供給の取組、増加する苗木需要(コンテナ苗)に対する取組、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた木材需要の拡大についてなど、活発な議論が行われました。

今後、これらの貴重なご意見を踏まえ、林業の成長産業化に向けた九州森林管理局の各種取組をさらに強化することとし、有識者懇談会を終了しました。

(担当：計画課)

野生鳥獣との共存に向けた 検討委員会開かれる

2015年度の「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業（九州中央山地地域）検討委員会」が行われ、検討委員6人のほか、森林総合研究所九州地方環境事務所、熊本県自然保護課、調査地を管轄する森林管理署など、シカ対策に関係する機関から37人が参加しました。



シカ対策について検討を行う関係機関

吉永俊郎計画保全部長のあいさつの後、検討委員の中から森林総合研究所九州支所の森員和仁支所長を座長に選出し、本事業に関連する発注事業の実施報告、本年度の本事業の調査結果に関する検討を行いました。

主な内容としては、生息密度と標高の関係や調査目的に合った解析の手法、植生被害レベルやシカ被害レベル判定シート（簡易版）の検証、GPSテレメトリー法による調査分析、植生の保護・再生手法などについて意見が出されました。

特にGPSテレメトリー法の行動調査のデータは、約50個体のデータが蓄積されており、これまで7年間の貴重な事業結果であり、シカ被害対策への積極的な活用促進が図れないか。また、捕獲したシカのジビエ利用などへの取り組み、シンポジウム開催要望などについて意見が出されました。

今後は、この検討委員会の貴重な意見などを基に、シカ被害対策を推進していくこととしています。

（担当＝保全課）

五木地域における 全体構想検討委員会を開催

【熊本南部森林管理署】3月8日、熊本県五木村において、第3回五木地域における林業の成長産業化に向けた全体構想検討委員会（座長：藤掛宮崎大学教授）を開きました。



活発な議論を行った検討委員会

この検討委員会は、五木地域の森林共同施業団地をモデル地域として、民有林や国有林を管理・経営する協定者をはじめ、広く関係者等が連携して課題の共有や協力体制の確立を行い、有機的・総合的に取組を推進することにより、スケールメリットを活かした森林整備などを進め、五木地域の林業の成長産業化を実現することを目的に、全体構想（マスタープラン）を策定

することとし、昨年12月に委員会を立ち上げ、今回が最終の委員会となりました。

冒頭、洲上和之九州森林管理局長から「委員の皆様からの意見や提案を踏まえたよいプロジェクトができ、民有林と国有林が一体となって地域の林業が活性化し山村地域が元気になるという、まさに林業の成長産業化や地方創生の成功事例となるよう五木地域の取組を進めていきたい。」との挨拶がありました。

検討委員会では、これまで議論してきた結果を踏まえてのマスタープラン案を説明し、有識者や協定者、関係行政機関、森林組合、日本プロジェクト産業協議会（JPIP）、森林総合監理士（フォレストスター）による活発な議論が行われました。

また、当日は、今後のモデル地域の取組に係る運営体制やロードマップも示され、4月以降、マスタープランに基づく林業の成長産業化に向けた具体的な取り組みを推進していくこととしています。

「五木地域森林共同施業団地の概要」面積：約6,300畝（五木村、相良村、山江村、八代市）

協定者：森林総合研究所森林整備センター、住友林業（株）、九州横井林業（株）、王子木材緑化（株）、日本製紙（株）、日本製紙木材（株）、熊本南部森林管理署

森林整備協定運営会議を開催

【宮崎南部森林管理署】日南市富士地域森林整備協定に基づく運営会議を富士国有林内において行いました。

この協定箇所は、昨年度まで民有林・国有林併せて286畝で行っていたものを、民有林170畝、国有林507畝の計677畝として、新たに協定を更新したところです。

現地では、協定相手方の南那珂森林組合と、これまでの路網の整備状況や今後の計画、民有林・国有林の間伐計画等について意見交換を行い、路網計画は整備協定の核となるものであることや、将来的には共同出荷を念頭に置いた整備計画の必要性について意見があり、今後とも民国連携して推進することを確認して終了しました。



現地にて意見交換を実施

高い評価を受けた取り組みを表彰 間伐推進コンクール表彰式を開催



表彰状を授与される受賞者

平成27年度国有林間伐推進コンクルの表彰式を九州森林管理局で行いました。

本コンクールは、国有林野事業における間伐などの請負事業や立木販売箇所において、低コスト化への取り組み、高い生産性を達成した取り組みを競い、その作業システムの特徴などを公表することで、より効率的かつ低コストな森林整備について

普及、推進することを目的としています。

今年度は、宮崎県小林市の永島林業株式会社の事業が林野庁長官表彰の最優秀賞を、また、熊本県人吉市の株式会社泉林業の事業が林野庁長官表彰の優秀賞を受賞されました。

受賞のポイントとして、永島林業株式会社は、「既設の作業路を活用した森林作業道を配置することによる各工程の生産効率の向上、大径材に対応したハーベスタを導入したことによる造材の作業効率の向上」が、また、株式会社泉林業は、「リモコン

による集材操作が可能なクローラータイプのタワヤーダを導入したことによる生産性の向上と、架設・撤去時間の大幅な短縮を実現したこと」が高く評価されていた受賞となりました。

また、九州森林管理局長表彰の優秀賞として大分県大分市の菊地木材株式会社が受賞されました。

九州森林管理局では、局のホームページに概要を公表し、民有林を含めた九州一円への普及、推進を図っていくこととしています。

(担当)資源活用課



コンクール受賞者の皆様



齋藤 典之さん

の将来性などの問題点。本当に森林はきちんと管理されているのか？そんな少しネガティブなイメージを持って国有林モニターに応募した。

モニターになって広報誌を読んだり、モニター会議に参加した中で、

「一生懸命森林管理をして

いる人がたくさんいる」ということを感じた。広報紙では各地域との活動が頻繁に行われていることを知ったし、各関係機関との調整業務もたくさんあることがわかった。モニター会議では、間伐作業の現場、製材工場

もっと森林のアピールを！ ～広報・宣伝活動に期待～

て管理しなければならないということがあるのだろう。

産業として成立させるためには様々な課題があるのだろうか、モニター会議時には木を木材にする際のコストの高さを感じた。現場までの距離が遠く、林道も

整備が充分ではない。さらに競争相手である外国産木材と比べてどのような付加価値をつけていくかも課題であろう。

これらの課題を解決するためには、もっと森林に普段関わっていない人々たちへのアピールをする必要があると思う。

特に若い世代へのアピールは重要で、労働力の確保や技術的イノベーションのために小学生・中学生への働きかけを積極的に進めなければならない。降水、そして山から海への水循環サイクルの中での森林の役割を知ること、都市生活にも森

林が大きく関与していることも理解できるようにするのがいい。広報・宣伝活動のより一層の充実を期待したい。

と偉そうなことを書いてしまっただが、自分自身も始めて森林モニターをやってみて知ったことがたくさんありとても楽しかった。今後は森林ビギナーとして少しずつ日常生活でも森林に触れ合っていくこと、そしてそこで得た知識を周囲の人たちに伝えていくことで微力ながら、森林産業の発展に貢献できたらと思う。ただし、スギ・ヒノキ花粉症が大きな問題として残っているが・・・

(福岡県遠賀郡在住)

普段森林とは関係のない日常を送っているが、なんとなく森林の管理に興味を持っていた。自身の花粉症、近年の土砂災害河川災害の頻発、木質バイオマス発電などのグリーンエネルギー

国有林材供給調整検討委員会を開催

※現時点での供給調整は要しないとの結論

2月23日に本年度4回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しない。」との結論になりました。

委員からは次のような意見がありました。

／原木の生産は、天候に恵まれて順調であり、販売も、燃料用と輸出用に下支えされ、更に大型工場の需要により順調である。民有林、国有林とも事業地が奥地化しており、出材数量が減少しているが、林業労働者の定着化も含めて、一層の機械化が必

要である。

／大雪の影響から回復し市場へ原木の出材は良くなっている。

主伐再造林を進めていくには、低コスト化ばかりではなく、A材と大径材の需要を作り出し再造林の経費を生み出すことが課題である。供給調整は必要ない。

／燃料用途の増加からA、B、C、D材の価格差が縮まったが、A、B材の需要を早期に作り出さないと、忙しいだけで儲からない状況となっている。需要者に伝えるためには、あてになる数値情報の提供が必要である。

国有林材の供給は、調整弁を緩めて量を増やす取り組みを進めていくべきである。

／原木の入荷は順調である。製品の動きは安定しており、新年度に入ると回復すると見ている。

国有林材の供給調整は必要ない。製材品の在庫は年末には減少し、1月からは乾燥材の供給が必要に追いつかなくなっている。

国有林材の供給は、このまま続けてほしい。

／台板の荷動きは昨年10月以来活発化し、現在生産が追いつかない状況となっている。今後需要は落ち着いてくるとみられるが、国有林材はしっかり供給を

続けてほしい。
／為替の円高により海外から輸入される製紙用チップは値下げする方向であり、国産チップは割高になる。原木の集荷を絞るなどして対応していく考えであるが、国有林材の供給については継続してほしい。

（委員会の概要は局ホームページに掲載）
（担当）地域木材情報分析官

第23回延岡アースデイ開催

【宮崎北部森林管理署】延岡市及び近隣の町村において、「自然は命 地球は宝」のスローガンのもと、第23回延岡アースデイが開かれました。

この活動は官公庁や一般ボランティアの団体が25箇所の会場に分かれて、清掃作業や植樹作業を行うもので、宮崎北部森林管理署も協賛団体として、例年参加しているものです。

今年は延岡市内の海岸林2箇所において、清掃活動を行うこととし、事前に参加の呼びかけを広く行ったところ、協賛団体や、近隣の市民の方々が、小・中・高生など約200人の参加がありました。

参加者の中には、30歳のゴミ袋2枚分収集された方もおられ、1時間半程度の作業時間に、4



清掃活動に汗を流す参加者の皆さん

トントラック2台分のゴミを収集しました。

日頃から、海岸林の様々な恩恵を享受している地域住民の皆さんも、清掃活動を通じて改めて海岸林の大切さを、再確認した1日となりました。

「森づくり祭」で枝打ち作業

【宮崎森林管理署】3月6日、宮崎市一ツ葉海岸林において、宮崎署と宮崎市みどり推進会議は合同で「森づくり祭」を行いました。

この取組は一ツ葉海岸林を民間協働で保全する活動を通じて、多くの市民に海岸林に触れ関心を深めてもらうことを目的に毎年実施しているものです。

当日は小雨が降る中、緑の少年団や市民ボランティア等、約

170人の参加があり、改めて海岸林への関心の高さがうかがえました。

開催にあたり崎野健輔署長や宮崎市役所の農林課長が「一ツ葉海岸林は海からの飛砂や潮などから私たちの『くらし』を守るなど、とても重要な役割を果たしている、皆さんで大切にしましょう」と挨拶。

その後、職員による安全指導を行い、参加者はヘルメットとノコギリを受け取ると、一斉にクロマツの枝打ち作業を行いました。

約一時間の作業でしたが、参加者は慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、無事に作業を終えることができました。

枝打ちした海岸林は見違えるようになり、今後の健全な生育が期待されることです。



作業を終えて記念撮影



検討委員会の様子

人 の う ら ぎ

☆3月31日付林野庁長官発令
退職（研）九州育種場）

寺本 勝【総務企画部企画調

整課監査官】

☆4月1日付林野庁長官発令

林野庁林政部林政課監査室長

中山浩次【業務管理官】

業務管理官

中村道人【中部局森林整備部

長】

林野庁国有林野部経営企画課国

有林野生態系保全室長

崎野健輔【宮崎森林管理署長】

林野庁国有林野部業務課企画官

（国有林材安定供給担当）

西林寺隆【福岡森林管理署長】

福岡森林管理署長

安永正治【関東局茨城森林管

理署長】

佐賀森林管理署長

川部静也【北海道局十勝西部

森林管理署長】

熊本森林管理署長

森 勇二【佐賀森林管理署長】

宮崎森林管理署長

鈴木正勝【林野庁国有林野部

経営企画課企画官

（事務・情報管理担

当）】

北薩森林管理署長

前田三文【森林整備部資源活

用課長】

四国局四万十森林管理署長

佐賀賢二【北薩森林管理署長】

森林整備部資源活用課長

西 栄二【森林整備部企画官

（供給戦略担当）】

総務企画部専門官（契約適正化
担当）

田代今朝広【大分西部森林管

理署次長】

総務企画部専門官（債権管理担当）

山本文雄【総務企画部専門官

（契約適正化担当）】

森林整備部企画官（供給戦略担当）

赤星良治【宮崎南部森林管理

署次長】

森林整備部企画官（技術開発・

普及担当）

草野秀雄【西都児湯森林管理

署次長】

総務企画部企画調整課監査官

黒木慶次郎【林野庁林政部林

政課課長補佐（監

査実施班担当）】

林野庁国有林野部業務課課長補

佐（技術開発・普及班担当）

猪島明久【森林整備部企画官

（技術開発・普及

担当）】

西都児湯森林管理署次長

久保幸治【森林整備部森林整

備課課長補佐】

大分西部森林管理署次長

塚本 徹【（研）森林総合研

究所林木育種セ

ンター育種部指導課

普及調整役】

宮崎南部森林管理署次長

中村公治【大隅森林管理署次

長】

大隅森林管理署次長

江藤幸二【宮崎森林管理署都

城支署総括事務管

理官】

☆3月31日付森林管理局長発令

総務企画部付

一本 譲【（研）九州育種場】

☆4月1日付森林管理局長発令

森林整備課課長補佐

白濱正明【熊本南部署総括森林

整備官】

転任挨拶

お世話になりました



前 業務管理官
中山 浩次

平成25年4月、一般会計の
スタート時に九州局に初赴任し、
2ポストで3年間勤務させてい
ただきました。

この間、九州では、大型製材
工場の進出や木質バイオマス発
電所の建設、木材輸出などの動
きが活発化。また、人工林資源

の充実により主伐時代の到来が
現実のものとなりました。

九州局では、主伐の考え方を

反映させた森林計画の策定、実

行上の課題である苗木供給や低

コスト化、シカ対策、五木地域

森林共同施業団地のモデルプロ

ジェクト化などに県、市町村、

事業体等と「民国連携」して取

り組みを推進するなど、職員の

皆さまとともに試行錯誤しなが

ら楽しく仕事させていただきました。

有意義な3年間となりました。

今後とも、九州局の伝統であ

るチャレンジ精神あふれる取り

組みを期待しています。

九州局の今後ますますのご発

展と皆さま方のご健勝を心より

お祈り申し上げます。御礼のあいさ

つとさせていただきます。大変

お世話になり、ありがとうございます。

資源活用課課長補佐

志賀栄一【北薩署総括森林整備

官】

計画課企画官（森林資源評価担当）

沼津浩明【長崎署森林技術指導

官】

計画課計画調整官

小原豊治【長崎署総括事務管理

官】

治山課設計指導官

一口竜也【治山課企画係長】

西表森林生態系保全センター生

態系管理指導官（計画課）

田上正文【環境省】

屋久島森林生態系保全センター

生態系管理指導官

渡邊昭博【西表森林生態系保全

センター自然再生指

導官】

西表森林生態系保全センター生

態系管理指導官

山部国広【佐賀地域林政調整

官】

西表森林生態系保全センター自

然再生指導官

古閑智之【鹿児島署総括地域林

政調整官】

森林整備課設計指導官

久保田利郎【屋久島署総括治山

技術官】

経理課企画係長

猪島憲治【経理課収入係長】

計画課経営計画官

佐伯卓也【長崎署森林整備官】

治山課企画係長

松岡良二【林野庁】

治山課民有林治山係長

甲斐誠一【森林整備課路網整備係長】

森林整備課路網整備係長

針持秀一【北薩署総括治山技術官】

官

資源活用課供給計画係長

尾近 茂【熊本県】

資源活用課素材供給係長

小園英行【佐賀署森林整備官】

総務課安全衛生係長

浜田雅代【研】森林総合研究所

企画調整課情報管理係長

原田美千子【研】九州育種場

企画調整課監査係長

林田 誠【総務課安全衛生係長】

経理課収入係長

河内勝秀【林野庁】

治山課調査係長

竹原敬一郎【宮崎署都城支署治山技術官】

山技術官

長崎署森林技術指導官

甲斐孝生【長崎署地域林政調整官】

官

熊本署森林技術指導官

岡本政秀【熊本南部署地域統括森林官】

熊本南部署森林技術指導官

楠本哲也【大分署地域林政調整官】

官

宮崎北部署森林技術指導官

桑原英隆【熊本署総括地域林政調整官】

屋久島署森林技術指導官

植薄和彦【沖縄署総括事務管理官】

官

熊本署総括地域林政調整官

高木周一【資源活用課課長補佐】

鹿児島署総括地域林政調整官

吉田真佐也【西表森林生態系保全セクター生態系管理指導官】

全セクター生態系管理指導官

佐賀署地域林政調整官

日田仁志【宮崎北部署森林技術指導官】

長崎署地域林政調整官

山口照秋【森林整備課設計指導官】

官

大分署地域林政調整官

中嶋紀光【熊本南部署森林技術指導官】

沖縄署地域林政調整官

東 誠也【福岡署地域統括森林官】

官

福岡署総括事務管理官

飯星 明【熊本南部署総括事務管理官】

長崎署総括事務管理官

村上國男【長崎署総括森林整備官】

官

熊本南部署総括事務管理官

中村昭一【北薩署総括事務管理官】

官

宮崎署都城支署総括事務管理官

久保田修【西表森林生態系保全セクター生態系管理指導官（計画課）】

北薩署総括事務管理官

深田孝治【福岡署総括事務管理官】

屋久島署総括事務管理官

木村 宏【宮崎北部署総括森林整備官】

官

沖繩署総括事務管理官

鍵水隆憲【屋久島署総括森林整備官】

備官

福岡署総括森林整備官

後藤彰彦【宮崎北部署首席森林官】

官

長崎署総括森林整備官

中川裕司【西都児湯署主任森林整備官】

官

熊本南部署総括森林整備官

渡辺浩司【熊本署主任森林整備官】

宮崎北部署総括森林整備官

藤川晃久【屋久島署森林技術指導官】

官

北薩署総括森林整備官

宮崎太守【計画課計画調整官】

屋久島署総括森林整備官

山邊隆広【北薩署首席森林官】

宮崎北部署総括治山技術官

歌野邦美【治山課調査係長】

宮崎署総括治山技術官

幾野俊彦【鹿児島署主任治山技術官】

術官

北薩署総括治山技術官

古庄誠司【宮崎署総括治山技術官】

官

屋久島署総括治山技術官

兒玉祐二【治山課民有林治山係長】

官

屋久島署主任事務管理官

坂本雄二【大分署事務管理官】

熊本署主任森林整備官

杉中邦浩【資源活用課素材供給係長】

官

熊本署主任森林整備官

松下俊二【宮崎署都城支署主任森林整備官】

官

熊本南部署主任森林整備官

木村 真【熊本南部署首席森林官】

官

宮崎北部署主任森林整備官

川野博之【熊本署首席森林官】

大分署主任森林整備官

岩上 勇【宮崎北部署主任森林整備官】

西都児湯署主任森林整備官

荒木逸郎【長崎署首席森林官】

官

宮崎署都城支署主任森林整備官

福山親幸【北薩署主任森林整備官】

宮崎南部署主任森林整備官

宮本和美【宮崎南部署首席森林官】

官

北薩署主任森林整備官

米本龍正【熊本南部署主任森林整備官】

官

大隅署主任森林整備官

遠坂洋志【熊本南部署首席森林整備官】

官

屋久島署主任森林整備官

黒田伸博【屋久島署森林整備官】

鹿児島署主任治山技術官

下池和彦【鹿児島署治山技術官】

福岡署事務管理官

武藤和子【佐賀署事務管理官】

佐賀署事務管理官

吉坂雅夫【東北局】

長崎署事務管理官

後藤直哉【環境省】

大分署事務管理官

高瀬智晶【長崎署事務管理官】

宮崎北部署事務管理官

川野幸三【西都児湯署事務管理官】

西都児湯署事務管理官

中西秀博【西都児湯署森林官】

新規採用者紹介

☆一般職（大卒）☆

都賢太郎（長崎署）

田村実加（大隅署）

宮崎 海（都城支署）

朝田清子（佐賀署）

前田悠貴（福岡署）

角田みなみ（森林整備課）

☆一般職（高卒）☆

松村大地（熊本南部署）

諫山雄一郎（長崎署）

緒方琴音（技術普及課）

山口 強（西都児湯署）

山形良平（宮崎南部署）

新ヶ江颯（沖縄署）

宮崎北部署事務管理官 仮屋信一【宮崎南部署森林整備 官】	宮崎署都城支署地域技術官 久木田一光【熊本南部署地域技 術官】	長崎署首席森林官 本山 巖【大分署主任森林整備 官】	大隅署首席森林官 中村正任【西都児湯署首席森林 官】	宮崎南部署森林官 沖田正志【宮崎署森林官】
宮崎署都城支署事務管理官 緒方誠治【福岡署事務管理官】	北薩署地域技術官 立久保さとみ【北薩署事務管理 官】	熊本署首席森林官 竹永泰雄【屋久島署首席森林官】	大隅署首席森林官 大岩根浩【屋久島署主任事務管 理官】	北薩署森林官 柏木和美【鹿児島地域技術官】
北薩署事務管理官 中川秀樹【北薩署森林官】	長崎署地域技術官 古田敏也【屋久島署地域技術官】	熊本南部署首席森林官 入江和浩【熊本南部署森林官】	理官】 屋久島署首席森林官 渡瀬博美【長崎署首席森林官】	大隅署森林官 濱田祥吾【宮崎南部署森林官】
屋久島署事務管理官 稲員優次【福岡署森林官】	西都児湯署地域技術官 小中原葵【佐賀署地域技術官】	熊本南部署首席森林官 西 文彦【環境省】	沖繩署首席森林官 中村勇次郎【屋久島署主任森林 整備官】	屋久島署森林官 草野 誠【福岡署治山技術官】
福岡署森林整備官 中山俊和【大分西部署森林整備 官】	鹿児島署地域技術官 谷端美菜子【長崎署地域技術官】	大分西部署首席森林官 奥田博司【福岡署首席森林官】	福岡署首席森林官 園田泰夫【大隅署森林官】	屋久島署森林官 井 誠喜【近畿中国局】
熊本署森林整備官 後藤貴裕【福岡署森林整備官】	福岡署地域統括森林官 井上信義【大分西部署地域統括 森林官】	宮崎北部署首席森林官 大久保重孝【西都児湯署首席森 林官】	福岡署森林官 吉村浩一【屋久島署森林官】	沖繩署森林官 阿南達也【屋久島署事務管理官】
大分西部署森林整備官 本田末広【熊本署森林整備官】	熊本南部署地域統括森林官 押方清隆【沖縄署地域林政調整 官】	西都児湯署首席森林官 岩本浩三【宮崎北部署事務管理 官】	熊本南部署首席森林官 坂田 恵【熊本南部署森林整備 官】	総務課付 原口梨沙【環境省】
宮崎南部署森林整備官 岩下正斉【宮崎署森林官】	大分西部署地域統括森林官 坂梨哲章【屋久島森林生態系保 全センター生態系管 理指導官】	西都児湯署首席森林官 才木伸洋【宮崎署首席森林官】	西都児湯署首席森林官 田中善成【西都児湯署森林整備 官】	総務課 寺地祐人【鹿児島署】
屋久島署森林整備官 川野 等【屋久島署治山技術官】	鹿児島署地域統括森林官 下岩 守【大隅署地域統括森林 官】	宮崎署首席森林官 河野幸夫【西都児湯署首席森林 官】	西都児湯署森林官 宮崎署森林官 木崎真一郎【宮崎署都城支署森 林官】	企画調整課 増田莉菜【宮崎署都城支署】
長崎署治山技術官 村上 学【大分署治山技術官】	大隅署地域統括森林官 宮本和久【鹿児島地域統括森 林官】	宮崎南部署首席森林官 高木信哉【大隅署首席森林官】	宮崎署首席森林官 山本貴二【環境省】	企画調整課 室木直樹【林野庁】
大分署治山技術官 中村健一【長崎署治山技術官】	鹿兒島署治山技術官 江島昭則【宮崎署都城支署治山 技術官】	北薩署首席森林官 山本貴二【環境省】	北薩署首席森林官 川口文明【内閣府】	計画課 長谷川聡【林野庁】
鹿兒島署治山技術官 宮崎署都城支署治山技術官 橋口逸成【宮崎南部署森林官】	佐賀署首席森林官 津川敏之【北海道局】	鹿兒島署首席森林官 和田誠二【屋久島署総括事務管 理官】	宮崎署都城支署森林官 藤田敬一郎【宮崎署都城支署地 域技術官】	保全課 迫本翔太【沖縄署】
熊本南部署地域技術官 白田浩臣【宮崎署都城支署事務 管理官】	長崎署首席森林官 福田錦吾【沖縄署首席森林官】	宮崎南部署首席森林官 山部清人【福岡署森林官】	宮崎南部署森林官 中村英之【熊本南部署森林官】	佐賀署 鶴山喜之【北薩署】
		大分西部署 松井郁弥【長崎署】	大分西部署 清田泰志【西都児湯署】	長崎署 橋本暁寛【大分西部署】

宮崎北部署
小中原真【佐賀署】
鹿児島署
小野千華【技術普及課】
屋久島署
富田尚斗【大分西部署】
宮崎署
向井伸生【計画課】
林野庁出向
石原拓弥【資源活用課供給計画係長】
林野庁出向
井 勝吉【宮崎北部署総括治山技術官】
林野庁出向
水野由芽【鹿児島署森林官】
林野庁出向
宮崎隆太【大隅署主任森林整備官】
林野庁出向
管 秀雄【沖縄署森林官】
【研】森林総合研究所出向
川部美奈子【企画調整課監査係長】
近畿中国局出向
尾方祐貴【宮崎北部署】
農林水産省出向
田中優哉【企画調整課林政推進係長】
【研】九州育種場出向
佐藤讓治【企画調整課情報管理係長】
鹿児島県出向
小野稔和【総務課】

内閣府出向

本田勝美【福岡署総括森林整備官】

環境省出向

山岡文麿【計画課経営計画官】

環境省出向

本田博邦【計画課企画官（森林資源評価担当）】

環境省出向

濱口絵里奈【宮崎北部署事務管理官（担当Ⅱ総務課）】



イチイガシは材質がよく硬いことから、日常品から軍需材までいたるところで使われていました。特に船の「櫓」として重宝され、弥生時代には農機具に利用されたことが出土品から確認されています。

イチイガシの名前は、はつきりしていませんが、櫓（カシ）類でもっとも材質がよいことから一位櫓、一番よく燃えるから一火櫓という説があります。暖地の山中に生えますが、神社仏閣に植えられ保存されてお

長い間で苦勞さまでした

◇定員内職員◇・・・12人

3月31日付林野庁長官発令

一高一任（総務企画部）

森本義春（熊本署）

3月31日付森林管理局長発令

一本 譲（総務企画部）

岩本英樹（経理課）

田代 清（熊本署）

山部直幸（熊本署）

古城義夫（大分西部署）

坂橋祐二（宮崎南部署）

宇戸 正（北薩署）

田中清公（鹿児島署）

亀岡大真（福岡署）

埜村英明（企画調整課）

◇定員外職員◇・・・9人

伊東初男（大分署）

川本 清（宮崎北部署）

喜田 稔（宮崎署）

岩下福雄（都城支署）

田中久紀（宮崎南部署）

切通利美（北薩署）

緒方健次（北薩署）

吉永洋一（北薩署）

神田弘秋（鹿児島署）

102 イチイガシ（ブナ科）

り巨木を観察することができま
す。イチイガシの実シイの実
と同様に、アクがなく渋抜きな
しでも食べられます。

イチイガシは、葉の裏をなめ
るとザラザラしていることを確
かめ判別します。カシ類ではイ
チイガシにだけ葉裏に星生毛が
あるためです。

国有林には、軍需材供給のた
め試験的に植えられた100年
生前後の人工林試験林があり、
保護林として保存され、金峰山
でも見ることができます。



桜の花が満開の時期になり、新しい年度が始まった、新しい職場や業務に、新たな気持ちで取り組まれている方も多い事だと思ふ▼今月号には職員の異動などの記事が掲載されているが、数えてみると、異動・退職・新規採用合わせて二百数十人となり、その一人ひとりが、新しい環境で新たな道をつくっていくこととなった▼その中で、最も新しい（若い？）といえば新規採用者になるが、今年度は12人の新しい職員が我が職場に採用され、今まさにそれぞれの部署で、頑張っていることだと思う▼頑張るといえば、林野庁の林政審議会がまとめた、森林・林業基本計画案では、国産木材の供給量を2025年に4千万立方メートル増やす目標を設定した▼これは14年実績の1・7倍に相当する数量で、計画案では地域が一体となった丸太供給体制の構築や、林道・作業道を整備し、伐採後の再造林の推進などの施策が掲げられている▼計画案は意見募集を受け、5月中旬に閣議決定される予定となっていることから、目標達成に向け自身も頑張らねばと思う。（し）